

# ■ 2020年度 入試問題分析シート ■

早稲田大学

政治経済学部

科目	数学
----	----

総括

試験時間	60分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	70点	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

昨年より1問減って全4題の出題となった。問題数は減ったものの、各問題の難易度は昨年と同等、もしくはやや難しくなっており、60分間ですべての問題を解ききるためには相当の実力が必要である。問3のように授業や参考書では扱われない題材の問題もあり、状況の把握と解析方法の確立に苦労した受験生も多かっただろう。公式の単純な応用で結論が出る問題はほとんどなく、いろいろな計算の技量が必要となる。その場で問題解決に乗り出せるような応用力の有無によって結果に差が現れそうである。

〈特記事項・トピックス〉

4問の出題は2017年度以来である。記述式の問題が1題あるのは昨年同様であり、問1が小問集合であるのはここ数年の傾向である。問3のような売上と利益の評価に関する問題が出題されるのは3年連続であり、計算の難度が高かった。立体図形に関する問題は出題されず、代わりに平面図形に関するベクトルの問題が出題された。目新しい問題がある一方で、積分などの頻出問題もあり、広範な分野からのバランスの良い出題となっている。

〈合格への学習対策〉

教科書を中心とした学習で十分であるが、単なる公式の暗記と計算練習に終わることなく、発展的課題へ対応するための学習が必要である。平面図形・立体図形の初等幾何の研究も行っておきたい。

## 設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
問1 (1) (2) (3)	結果のみ	数学A 数学A 数学II 数学II	整数 確率 対数 積分、図形と方程式	分野の異なる小問3題の構成である。(1)は基本問題であるが、(2)、(3)は各分野の学習の習熟度が問われる問題となっている。いずれの問題も計算自体は難しくないが、(2)は分類を行うための時間が相当必要である。	標準
問2	結果のみ	数学B	ベクトル	ベクトルの関係式から、分割された三角形の各部分の面積比を考察する問題。辺の比と面積比の関係を正しく把握することが問題解決のカギとなる。(2)の「tの式」という部分は「tのみの式」と読むべきであるが、xも交えた式でもよいのか混乱する人もいたと思われる。	標準
問3	結果のみ	数学I 数学B	2次関数 数列	(1)、(2)という設定が、(3)への誘導となっているが、それを正しく理解できるかどうかポイントである。(3)における漸化式を解く部分にはヒントがないので、ここで差がつくことになる。	やや難
問4	記述	数学II	微分法 図形と方程式	判別式を用いて解決する部分は多数の受験生が理解できそうであるが、その後の方程式・不等式の正確な処理が面倒である。除外点まで含めた完全な答案の作成はかなり難しい。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。